

どうぶつこうえん ニュース



千葉市動物公園
Chiba Zoological Park

No.39

2001

春

Topics

トピックス

パラワンコクジャク キジ目・キジ科

わたくし、2000年12月26日に千葉市動物公園へやってまいりました。新着動物としては2000年最後の来園、つまり20世紀の大トリを努めさせていただきました。また、21世紀最初に皆様に初お目見えする動物としての栄誉も賜り光栄の至りであります。

おっと失礼、自己紹介が遅れまして。わたくし名前をパラワンコクジャクと申します。横浜生まれの横浜育ち、今回花嫁候補の彼女といっしょにやってきました。わたくしの一族はフィリピン・パラワン島の原生林という限られた地域にしか住んでいないため、その数は少なくワシントン条約付属書Ⅰに指定され希少種になっています。

体格はキジの仲間の中では小さいほうですが、別名ナポレオンコクジャクとも呼ばれるように、立ち振る舞いは威厳に満ち、容姿は色彩豊かでコクジャク類で一番美しい種であると自負しています。頭には冠羽を持ち、瞳は褐色で目の周りは赤く、耳の部分には白い羽。首から背中にかけては光沢のある緑青色、背中から腰にかけては薄い斑のはいった暗褐色、尾羽には名前からも判るようにコクジャク類と同じように光沢のある緑青色の円斑があります。

わたくしどもは、普段はとても紳士なのですが、結婚のシーズンを迎えるととても情熱的になってしまうのです。まず、彼女に自慢の冠羽を立ててプロポーズをします。ここまではいいのですが、その後自分の気



パラワンコクジャク（雄）

持ちを抑えきれず、ストレートに感情を表現してしまうため、彼女を激しく追いまわし、気がつくとかがをさせてしまうこともたびたび。時には殺してしまうことさえあるのです。何度後悔しても同じことを繰り返してしまいます。一族の数が少ないのはこの性格のせいなのかもしれません。

祖国を遠く離れた異国の地で、わたくしの新しい執事（飼育担当者）の期待を裏切らないように、仲むつまじい家庭を築こうと思います。

伴野 修一 (Syuichi Banno)

目次

CONTENTS

表紙【動物公園の航空写真】	①
トピックス	
【パラワンコクジャク】	②
特集【動物公園の16年間を振り返って】	③～⑤
動物公園の動物②【コツメカワウソ】	⑥
飼育よもやま話【コノオビアルマジロ】	⑦
動物公園日誌から【'00.11/1～'01.1/31】	⑧
編集後記	
裏表紙【ワオキツネザル（親仔）】	⑧

表紙の写真 動物公園の航空写真

動物飼育数

平成13年2月末現在

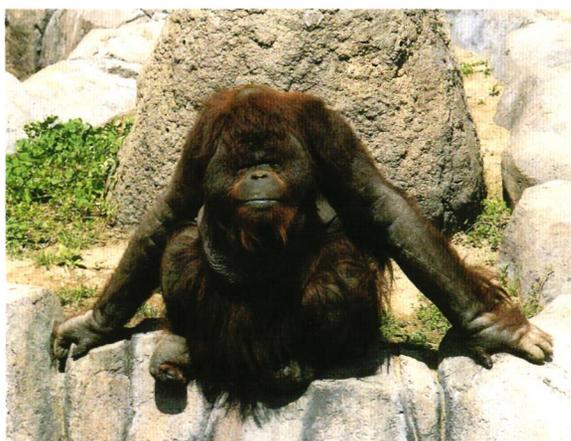
*Classified number of animals
as of 28, Feb. 2001*

哺乳類	54種	237点
鳥類	79種	302点
爬虫類	4種	20点
両生類	0種	0点
魚類	0種	0点
総計	137種	559点

動物公園の 16年間を振り返って

特集

早いもので私が千葉市の要請で動物公園建設のため上野動物園から千葉へ移って21年、そして建設した千葉市動物公園も1985年の開園から16年になろうとしています。その動物公園も老朽化が進み、第一次開園区域の人気施設である子ども動物園は、昨年からの改築が始まり、今年の秋にリニューアルオープンする予定になっています。今年から始まる5ヵ年計画事業では、同じ一次開園区域のモンキーゾーンがリニューアルされる予定で、ゴリラの展示充実のため、オランウータンを同じ樹上性の生活をしているテナガザルのそばに移動する予定です。また、



シンガポール動物園から寄贈されたオランウータンのラーマン

キリンも代が変わり、新しい雄が群馬の桐生が岡動物園から来園する予定で、現在キリンの放飼場は模様替えをして受け入れの準備をしています。また、夏までにはゴリラのモモコとモモタロウが帰ってくることになっています。私は定年のため、3月末日で動物公園を去らなければなりません。開園からの16年を回想してみたいと思います。

【動物公園開園】

1985年4月25日、前日までの雨が嘘のように晴れ上がり、開園を祝福しているかのようで、式典は正門内の広場にもうけられた会場に内外の招待客500名を集めておこなわれました。主な来賓は日本動物園水族館協会会長の元上司であった浅倉繁春上野動物園園長、沼田千葉県知事、外国からはカナダのノースバンクーバー市長、



松井旭千葉市長のオープニング挨拶

駐日ウルグアイ大使、同シンガポール大使、同ウガンダ大使などでした。来賓の見守る中、松井千葉市長の挨拶で開会式が始まり、ま新しいレストランでのレセプションで終了しました。市民に公開されたのは3日後の28日でした。開会式の前日までは連日の雨で舗装工事が進まず困惑したY君の顔、業者の尻をたたいてサインの取り付けを開園式当日の朝にやっと完了させたY君、無事開園式を終了し、ほっとしたN君他みんなの顔が目に見えます。

一般公開の初日の4月28日は平日でしたのでそれほどではないと思っていたところ、開園まえから長蛇の列ができたため開園を早めましたが、来園者の数は自動券売機の販売能力を上回り、千葉では初めての自動改札機という新兵器への戸惑いが逆に入場速度を落としてしまったのです。正門前はキャパシティを超えてしまい、ガラスをたたくお客さんの形相に協会のN事務局長は青ざめて右往左往するだけでした。さばききれないので直接現金を職員が受け取る方式にしました。中にはおつりを貰えなかった人（すみません）、やそのまま入ってしまった人など様々で、この日の入場者は約4万3千人でした。翌29日は祝日でもっと朝早くから長蛇の列となってしまう、5万6千人もの人々が来園しました。そしてゴールデンウィーク中に来園した人は延べ25万5千人で、今日のように来園者が少なくなるとその時の凄まじさを思い出します。

【宮様の御成】

1996年11月12日・13日、当園は日本動物園水族館協会主催の第9回種保存拡大会議の開催担当園にあたり、秋篠宮殿下のご臨席のもとに幕張プリンスホテルで開催されました。



秋篠宮殿下園内ご視察

千葉市として皇族をお迎えするのは初めてで、その対応の仕方について経験のある動物園から資料を集めて準備を整えました。

11月12日午後1時、正門にご到着になり、当園を2時間にわたり視察されました。私がお案内役を命じられ、園内の展示や動物についてご説明いたしました。私より歩幅が広いので前を歩くのに苦労しました。殿下は鶏に興味をお持ちで野鶏（やけい）のコレクションにはことのほか興味を持たれた様子でした。またハシビロコウにも興味を示され、翌日の会議でのおことばの中でも、「若干個人的な趣味になりますが、ハシビロコウは大変好きな鳥の一つで、是非とも繁殖に成功することを期待しております」と申されたのが印象的でした。お帰りの際、この次は家族で来園したいとのご希望も述べられました。

私が殿下の園内ご案内をする栄誉を賜りましたことは、一生の思い出になることでしょう。

【忘れ得ぬ動物たち】

たくさんの動物がありますが、その中でも特に印象に残っている動物のお話をしましょう。

ハシビロコウ

その姿からも忘れることのできない鳥の一つです。

私が初めてこの鳥にあったのはまだ学生の頃、東京世田谷の進化学研究所で、性別の分からない2羽が飼育されており金魚を食べていました。あれから20年後、またこの不思議な鳥に会えるとは思ってもみませんでした。飼育のいきさつは、動物園建設に政治生命をかけていた穴倉清蔵議員がウガンダを訪問し大統領と会見した際、幾つかの動物をいただく約束が成立し、その中に含まれ

ていたのです。送られてきた一羽はウガンダの動物園で飼育されていたようで、まだ若く、ときどき「ギューギュー」と鳴いていたのが印象的でした。この個体は最初、子ども動物園のカピバラの中に展示していましたが、動かないので来訪者の方の中には剥製ではないかと思ひ、クチバシの前で手を動かしてみても、目の動くのを確認して立ち去る人もいました。

その後、この個体は捕獲時に負傷したと思われる指の傷から敗血症になり死亡し、現在は動物科学館2階に剥製として展示されています。是非また飼育したいと考え、業者に探し



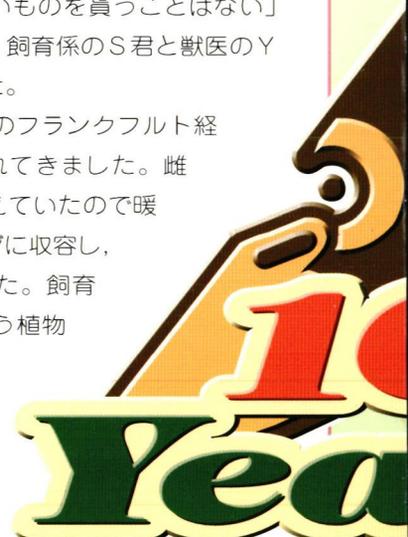
ハシビロコウ

てもらい6羽を購入し、内2羽は死亡しましたが、現在はオス2羽、メス2羽の4羽が飼育されています。この鳥は繁殖が難しいですが、若い一番は仲良く番になっており、世界初の繁殖を期待しています。

ミュビナマケモノ

突然、外務省中南米課から電話が入り、ボリビアの外務大臣が来日され、その際お土産としてミュビナマケモノを寄贈したいとの申し出があるが受け取ってもらえないかとの打診がありました。園内には今まで長期飼育に成功していないので「飼えないものを貰うことはない」との反対意見もありましたが、飼育係のS君と獣医のY君にこの大役をお願いしました。

1986年11月24日夜ドイツのフランクフルト経由で空路、雄・雌2頭が送られてきました。雌は寒いのか鼻水を垂らし、震えていたので暖房した動物病院の特製のケージに収容し、試行錯誤の飼育が始まりました。飼育が難しいのはセクロピアという植物の葉しか食べないので代替えの餌に変えるのが難しいからです。日本でも飼育経験はあるのですが、総て短命に終



わっています。担当者の努力でゴムの葉を良く食べることが判りましたが、飼育経験のある方にゴムを与えると樹液のために便秘を起こして死ぬといわれ、排便を確認するまでは不安でしたが、正常の排便を確認したときはほっとしました。セクロピアの葉は、ある植物園の好意の提供で急場をしのぎ、ハワイから輸入が可能となり、約3年という長期飼育に成



ミユビナマケモノ

功しました。この陰にはセクロピアの葉を提供していただいた植物園の方、ホノルル動物園の日系二世の方の好意、そして担当者2名の動物に対する献身的な愛情によるものと考えています。残念ながら1987年6月23日雌は死亡、解剖したところすでに毛の生えた胎児がいました。1989年9月19日雄死亡。おとなしく、パンダのように可愛く、頭の良いミユビナマケモノは、また飼ってみたい動物の一つです。

アジアゾウ

動物園で最も危険な動物はゾウです。今までに何人もの飼育係員が死んでおり、私も多摩動物公園でゾウを担当した時は何度も危険な思いをしています。当園で飼うべきか悩みましたが、やはりゾウは動物園のスーパースターであるから外すことはできませんでした。S氏の献身的な努力が認められ、スリランカ政府は千葉市のために孤児院で生活していた“スラタラ”と呼ばれる1頭の雄のスリランカゾウを寄贈することを閣議決定し、1987年8月23日受取ることができました。このゾウはなかなかのきかん坊ですが、大人になった今では少なくなったアジアゾウの繁殖を目指し、ストレスを与えないように飼育しています。最近はやまなから来た雌ゾウとの間で交尾行動をしていますので、何時の日か日本で初めてのアジアゾウの赤ちゃんが千葉市動物公園で誕生することを切に望みます。

【悲しかったこと】

長いこと動物園の仕事をしていますとまず思い出すことは

悲しかったことがほとんどです。その中の幾つかをご紹介します。

キリンの死

第二次開園も迫った4月、名古屋の東山動物園生まれの雄のキリンが何かに驚き柵を壊してキーパー通路へ出てしまいました。興奮しているキリンはそのまま突っ走り、ベテランのS君はゾウ舎の所で前に立ちはだかったのですが、一度付いたスピードは止まらず、そのまま走り抜け、子ども動物園の中を駆け抜けてウマの放飼場の柵をひとまたぎしたところで躓き前に倒れてしまったのです。すぐにトラックでキリン舎に運び治療をしましたが、みんなの看病の甲斐もなく夜半に死亡しました。不幸中の幸いはこれによるけが人がでなかったことです。彼は今、頭と首の骨が教材となって来園者の方々とお会いしています。

東山動物園のご好意で二次開園前までにもう1頭雄が送られてきて事なきを得ています。

フラミンゴ全滅

1991年5月11日の朝、出勤するとすぐにフラミンゴ担当のC君からフラミンゴが殺されているとの報告を受けました。現場に行ってみると赤いフラミンゴの死体が点々と転がっていました。シマウマ放飼場に逃げ出して一命を取り留めた1羽を除く3種38羽が死体となって転がっていたのです。早速原因調査が行われ、野犬によるものと判明し、付近の野犬は保健所の手でほとんど捕獲されました。この訃報を知った私の元の職場である多摩動物公園からフラミンゴの提供の話があり、2種27羽が無償で提供されました。元の職場の人たちが見守ってくれたことに目頭が熱くなる思いでした。

【終わりに】

回想してみますと多くのことが走馬燈のように浮かびます。楽しかったこと、悲しかったこと、つらかったこと。この様な動物園建設事業に参加できたことはこの上ない幸せと考えております。と言いますのも16億の事業費を70億、150億にまで拡大してもご理解いただき、内容にもほとんど注文も出されず我々を信じて見守っていただいた松井市長があってこそ他市に誇れる動物公園が完成したものと思います。そしてご協力いただいた地元の方々をはじめとする多くの方々のご協力(たすけ)と考えております。去るにあたり温かく見守っていただいた多くの方々に感謝する次第です。

宗近 功 (Isao Munechika)





コツメカワウソ



カンタ(左)とサツキ(右)

小動物ゾーンに昨年の10月、新しい動物が仲間入りしました。それが今回紹介する、食肉目イタチ科のコツメカワウソというカワウソ類で最も小さいカワウソです。

コツメカワウソは、名前のおり小さな爪のカワウソです。多くのカワウソ類はかぎ爪を持っていますが、このカワウソの爪は大変小さく痕跡的で、よく見なければ爪の存在に気がつかないほどです。体の大きさは40cm～60cmで雌は雄より小さく、体の色は薄い黒褐色で頬と喉は白色です。足は幅が狭く、前足は指の途中までしか水かきがありません。

カワウソは獲物を捕まえるにあたって、多様な技術を使うといわれています。カワウソ類の多くは、他の肉食動物と同じように、口を突き出して追ってかぶりつく方法で獲物を捕まえますが、コツメカワウソは、水中で前足を伸ばして追いかけて、捕まえて口に持っていく方法をとります。他のカワウソ類よりも手先が器用と言われ、敏感な前足の触覚だけで獲物を探したことができます。食べ物はカエル、ザリガニ、カニ、魚などです。当園では、アジ、ドジョウ、鶏頭、キャットフードなどを与えています。

さて、コツメカワウソが他のカワウソ類と違った点ももう一つあります。他のカワウソ類は基本的に単独生活をし、繁殖期以外は、雄は雌とその子供たちとは別行動をします。しかし、コツメカワウソは大きな家族群で生活し、繁殖番の間には強い結びつきがあり、雄が子供の養育を手伝います。また、声によるコミュニケーションもよくとり、その種類は12以上ともいわれています。

現在当園では、雄(カンタ)推定2才、雌(サツキ)7才の2頭を飼育しています。人にもよく馴れ、飼育係が近くに見えるとしきりに鳴いて餌のおねだりなどをします。マレーシアでは、漁(カワウソが網に魚を追い込む方法)にも利用しているそうです。カンタがまだ若いため、繁殖は先の話になりますが、とても仲の良い2頭なので、2世誕生の報告も近い将来できればと願っています。

古谷 保生 (Yasuo Furuya)



「ココノオビアルマジロ」

この雄のアルマジロは、1998年12月14日に他の動物園から当園(動物科学館夜行性動物舎)にやって来ました。アルマジロは主に夜間活動する動物なので、この動物舎は開園時間中の昼間を夜間照明にして暗くし、閉園後は逆に昼間のように明るくしています。

野生下ではアリなどの小さな昆虫を、長い舌を使って食べますが、動物園では野生下と同じ餌を同数・同量与えるのが難しいので、人工的に作った餌が主食となっています。この個体は他の動物園から来たので、まずはそこで与えられていた餌をやってみました。牛乳、缶詰のドックフード、キャベツ、リンゴ、バナナなどをミキサーにかけ、流動状にしたものを主食として午前中に与え、ココロギなどを夕方に与えてみました。最初は環境変化のためか、残すことが多かったのですが、徐々に食べてくれるようになりました。また、アルマジロは低温では活動が鈍くなり、乾燥した状態では呼吸器系の病気を起こすので、室内温度を26℃～27℃にし、床にはウッドチップを入れて水をまき、水浴ができるように水の入ったコンテナを入れるようにしました。アルマジロは本来、土を掘って餌を探するため前足で掘り返す力が強く、この室内でも盛んに前足で地面をかくので、指の爪が剥がれることがありました。そのため、コンクリートの床に杉板を一面に張り、その上にウッドチップを多めに入れることにしました。それ以降はケガなどなくなり安心しました。



ココノオビアルマジロ

ただ、このアルマジロは活動リズムがあって、日中活動する日が約25日続き、その後は日中ではなく夜間に活動する日が約26日続くので、その期間に来園された方々には「また寝ている!」と思われるかもしれませんが、何度か足を運んで頂けるとその愛嬌のあるしぐさが見られますので、時間のある時は当動物園にお立ち寄りください。

水上 恭男 (Yasuo Mizukami)



動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'00年11月1日~'01年1月31日

11月 1日 上野動物園に貸出中のニシローランドゴリラ（モモコ）の赤ちゃんの愛称名が（モモタロウ）に決定



11月 3日 秋の「ZOOクイズラリー」開催
11月 6日 アシカ池改修工事の為、カリフォルニアアシカ（全頭）予備プールに移動（1月末まで展示休止）
11月11日 「アニマルスクール」開催—新米獣医さんになろう—（講師 飼育課 辻村）
11月12日 「写真コンクール授賞式・記念講演会」開催（講師 動物自然写真家 吉野 信氏）



11月15日 中学生職場訪問（小見川中学校9名）
11月17日 中学生職場訪問（千葉市立高洲第二中学校4名）
11月26日 「ワンポイントウォッチング」開催（フラミンゴ）（講師 飼育課 伊場）
11月27日 コシジロヤマドリ（雌1），鹿児島市平川動物公園より受贈
11月29日 シシオザル（雄1），心不全にて死亡
ワオキツネザル（2頭），繁殖
11月30日 セーブルアンテロープ（雌1），麻痺性筋色素尿症にて死亡
12月 5日 本日よりアフリカ草原B放飼場改修工事の為，キリン，セーブルアンテロープ他，展示休止（3月下旬まで）
第48回動物園技術者研究会に，林出席（7日ま

で，福岡市にて）

12月 7日 中学生職場訪問（船橋市立七林中学校5名）
12月10日 「クリスマス音楽会」開催（演奏 平井 紀子氏）
12月20日 オグロマーモセット（4頭），シロガオマーモセット（4頭），動物交換で搬出
12月20日 クロミミマーモセット（雄1），動物交換で新着
12月26日 パラワンコクジャク（雄1，雌1），横浜市立よこはま動物園より受贈
12月28日 ハゴロモヅル（雄1），事故死
1月 7日 新春特別行事「餅つき大会」開催
1月11日 パラワンコクジャク（雄1，雌1），検疫明けで本日よりキジ舎にて展示開始
1月14日 園内バードウォッチング開催（講師 秦飼育課長）



1月20日 防災フェア実施
1月23日 ケープペンギン（雌2），動物交換で新着
1月24日 中学生職場訪問（習志野市立第5中学校4名）
1月25日 中学生職場訪問（千葉市立星久喜中学校4名）
中学生職場訪問（千葉市立土気中学校6名）
1月27日 本日終日，降雪あり，積雪10cm程

小林正典（Masanori Kobayashi）

編集後記

平成13年4月15日（日）に，新規事業として風船でいろいろな動物を作る「バルーンアートショー」を園内レクチャールームにて開催します。一つの風船が手品の如くみるみる動物に変化していく過程をご覧頂けますので，是非ご参加ください。どうぶつこうえんニュース次回発行予定は，平成13年6月1日です。

（白井 剛）



ワオキツネザル (親子)



Information

平成13年 平成13年
4月・5月の
催し物一覧

- ★ 4月15日 ㊦ バルーンアートショー
- ★ 4月22日 ㊦ ワンポイントウォッチング
- ★ 5月3日 ㊦ 親子で学ぶ動物教室
- ★ 5月5日 ㊦ 親子で学ぶ動物教室
- ★ 5月6日 ㊦ 親子で学ぶ動物教室
- ★ 5月20日 ㊦ ゆかいな森の音楽会
- ★ 5月27日 ㊦ ワンポイントウォッチング